



## 「やってはいけないこと。いってはいけないこと。」

(相手の人の身になって「思いやりのものさし」を…。)

桃五の皆さんが元気に楽しく過ごせるように、これから朝の挨拶をします。(6年生)  
はあい。(低学年の子たちから返事があります。)

「おはようございます。」 (おはようございまあす。)

気持ちのいいさわやかな月曜日の朝です。

今日は、「やってはいけないこと、言ってはいけないこと。(思いやりのものさし)」という話をします。

ずいぶん前に見かけたことですが、みんなに気持ちの優しい子になってほしくて、毎年このお話をします。今年も5月ごろにお話しました。覚えている人もいます。

ずうっと前のことです。先生の家近くの、緑あふれる日曜日の朝の公園。鳥の声もあたりに響いてとてもさわやかな、気持ちのいい朝です。

足の不自由な男の子が、お母さんといっしょに朝の気持ちのいい道を歩いていました。足の病気でしょうか、うまく歩けない様子で、ゆっくりゆっくり、ちょっと傾くようにして歩いていきます。あしにはころんでも足をけがしたりしないように、そしてうまく自分で歩くことができるように、金属でできた「装具」をつけています。お母さんと顔を見合わせる様子から、耳も不自由なようでした。

すぐ横を、転ばないように、怪我しないようにと、お母さんが寄り添ってついていきます。男の子はベビーカーをゆっくりゆっくり押しながら、ガチャガチャという音をさせながら、それでもとっとうれしそうにお母さんの顔を見ながら、ガチャガチャと、でもやっぱり倒れそうになりながらゆっくりゆっくり歩いていきます。

そこへ、ちょうどこの足の不自由な男の子の反対側から、やっぱりお母さんと一緒に小さな男の子が、歩いてきました。幼稚園の年中さんくらいでしょうか。チョコチョコ走り回って元気です。何か楽しそうにおしゃべりしながら、お母さんの後ろに回ったり前に回ったりしながらとっても楽しそうです。

そして、道の反対側を歩いている足の不自由な男の子に気づきました。

じいっと見つめてから、明るい声でこんなことを言ったのです。

「ねえねえお母さん、あのおにいちゃん歩き方がおかしいね。怪獣みたいだね・・・。」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

すると、お母さんは「しいいっ。あのおばちゃんがこわい顔してこっちを見てるから、そんなこというのやめなさい。」といいながら急いで遠ざかっていきました。

・・・・・・・・・・・・・・・・

(聴いている子どもたちの表情が思いやりに満ちてくるのが分かります。)

足の悪い子にはこの声は聞こえなかったようです。でも、この子のお母さんは、とても、とても、悲しい顔をして、男の子の手をぎゅうっと握って抱きしめていました。

幼稚園の子は何気なく、悪気もなく、そして、小さいからよくわからずに気になっていったのでしょ。それでも、いわれた人にすればとってもつらく悲しいこと。

だから、ちいさいこでも、やっぱり言ってはいけないことは、言ってはいけないのです。そして、この、幼稚園の子のお母さんの言った言葉がとっても悲しいのです。

「あのおばちゃんがこわい顔をしてるから・・・。」この言葉が悲しい言葉ですね。

こわい顔しているからやめるのではなく、言ってはいけないことなのです。きっと、このお母さんの言葉で、足の不自由な子のお母さんはつらく悲しい気持ちになってしまったのでしょね。

さて、何でこんなことを思い出してお話ししたかということ、最近校舎内で教室の前を歩い

ているとこんな声が聞こえてきます。

「うざい。」「きもい。」「しね、ばか。」こんな、とても悲しい、とてもこわい言葉が平気で教室の中から聞こえてくるのです。そして、注意すると、うるさい馬鹿関係ねえ……。

そんな様子を見ていると、そんな言葉を聞いていると、何だか、とても悲しくなってしまう。

心の中の『思いやりのものさし』がこわれてしまって、相手の人の気持ちなんてわからなくなっているのでしょうか。

「やっていいこと、やってはいけないこと。」「けっして言ってはいけないこと。」そうです、いけないことはいけないのです。相手の人を傷つけることは言ってはいけない、やってはいけない、のです。

ぶったり蹴ったり、暴力をふるうことはもちろん、相手の人が傷つくようなことを言ったり、仲間外れにしたりするようなこともいけないのです。

ぶったりたたいたりしなくても、言葉だけでも人はとっても傷つくのです。

そのいけないことを平気で言ったりやったりしてしまう人がいる。それが悲しいのです。

きっと、こういう人たちは、相手の人を思いやったり、こんなこと言ったりしたらとっても傷ついてしまうだろうなと思ったりする『思いやりのものさし』がこわれているのかもしれない。だから、人が傷つくような、悲しくて立ち上がれないようなひどいことも平気でやったり言えたりしてしまうのかもしれない。

そして、そんなとき、この足の不自由な子のお母さんのこと、足の不自由な子を抱きしめていたときのこのお母さんの悲しい顔を思い出すのです。

1年生も2年生も、3年生も4年生も、5年生も6年生も。そして、大人も子どもも関係ありません。このように、人の心や体を傷つけるようなことを言ったり、やったりしては絶対にいけないのです。

皆さんの中には、こんなこという人、いないですよね。言ってはいけない言葉、やってはいけないこと、ほかにもありそうですね。

自分がやらないのはもちろんのこと、人がやっているのに気付いたら、注意したり先生や校長先生たちに知らせたりして、桃五小でそのようなことが起こらないように、傷つけられる人のいないようにみんなで力を合わせてほしいのです。

桃五の皆さんには、いつもいつも人の心を思いやる『思いやりのものさし』心の中に持ち続けてほしいなあ、と思うのです。

人に迷惑をかけること。人にいやな思いをさせること。そして、そういうことをしてしまっても、気付きもしない人。そんな人にはなってほしくない。

皆さんには、ひとの気持ちを思いやり、友だちを大切にすすてきな子たちでいてほしいのです……。先生が今お話したこと、よく考えておいてくれるとうれしいです。

おはなし　　おわります……。。

